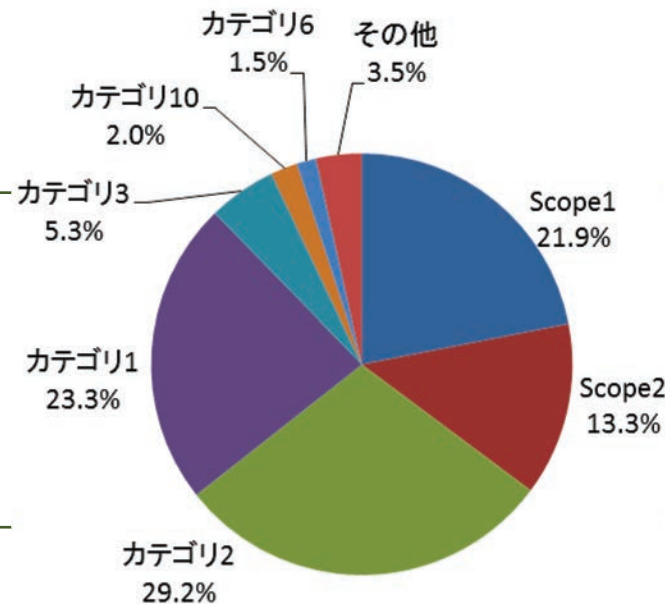


各社の考え方	
<p>□ 算定を行う背景・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と未来の医療に貢献する」という当社のミッションを果たしていくためには、当社事業が社会に及ぼす様々な影響を認識した上で、事業プロセス全体の健全性の維持・向上に努めること、また、企業市民として、社会の持続可能性を高める活動に関わることが重要と考えている。 企業の責任範囲として、サプライチェーンも含めた環境負荷の管理が必須であり、その施策の一つとしてサプライチェーンの各段階の環境負荷を把握する。 サプライチェーンを含めた事業活動における温室効果ガス排出量を把握し、アニュアルレポート等を通じて適切に発信する。
<p>□ 算定結果の活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経年変化量を確認することで排出量削減対策の効果を定量的に評価する。 アニュアルレポート・CSRデータブック等での情報開示を行うとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たす。
<p>□ 算定のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> カテゴリごとの温室効果ガス排出量を算定することにより、サプライチェーンにおいて、排出量が多い段階や、削減ポテンシャルのある段階の特定が可能となる。 CDP等を通じて積極的に社会に公表し、当社の環境への取り組みをステークホルダーに正しく理解していただく。
<p>□ 社内の算定体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社内の関連部署より活動量データを収集し、環境部門が算定する。



	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 算定の結果、カテゴリ1「購入した製品・サービス」およびカテゴリ2「資本財」における環境負荷が最も大きいことが確認された。カテゴリ2は、年度ごとの設備投資計画により変動するが、カテゴリ1については、製造プロセスの最適化による歩留まり向上を図り、原材料の削減を進める。 ● 国内製薬業界で初めて、医薬品の容器に植物由来ポリエチレン製ボトル「バイオマスポリビン」を採用した。さらにバイオマスポリビンを採用する製品の検討を進める。 ● より精度を高めながらサプライチェーン排出量の算定を継続し、削減可能性のあるカテゴリを特定し、効果的な削減活動を推進する。
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライヤーが広範囲にわたるため、積み上げ式による算定は困難であり、原単位による算定が主なものになる。そのため、海外での活動も含めた信頼ある原単位データベースが必要となる。 ● 原単位のみによる算定では、サプライチェーンの各段階におけるきめ細やかな環境配慮活動が反映されないおそれがある。 ● カテゴリごとに排出量の算定手法が異なり、精度にも差がある。そのため、スコープ3の総量として、スコープ1・スコープ2や、他社の排出量と比較する際には、それらの状況について十分に認識しておく必要がある。
<p>□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な活動量を収集するためには、社内各部門の協働が不可欠である。そのためにもサプライチェーン排出量を算定する目的などを明確にしておくことが望ましい。 ● 最初から全てを正確に算定するには、多大な労力が必要となる。まずは原単位による算定などにより、各カテゴリのおおよその排出量を把握して全体のイメージをつかみ、その後、順次精度を高めていくことが効果的であると考えます。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の調達量	● データベース
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達量	● データベース
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料、電気の使用量	● エネルギー量あたり原単位
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主分の輸送に係るトンキロ	● データベース
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別焼却、埋立、リサイクル量	● 廃棄物種類別原単位
カテゴリ6「出張」	● 交通手段別交通費支給額（海外渡航は航空経路ごとの件数）	● 交通費支給額あたり原単位等
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通手段別通勤交通費支給額	● 交通費支給額あたり原単位
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 社用リース車の燃料使用量	● エネルギー量あたり原単位
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 下流配送における推定トンキロ	● データベース
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 他社で加工される製品の出荷量	● 社内設定原単位
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 使用段階でエネルギーを使用する製品がないため非該当	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品の容器包装利用量	● 廃棄物種類別原単位
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 非該当	
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 非該当	
カテゴリ15「投資」	● 投資先ごとの株式保有数	● 投資先の排出量と株式保有割合